



～シンガポール旅行記～

弁護士 田中 勇輝

昨年の8月、シンガポールに3泊5日で行って来ましたのでシンガポール紀行を書いてみたいと思います。

シンガポールは日本との時差は1時間で、飛行時間は約7時間です。今回は、午後11時過ぎの飛行機で関空を出発し、翌朝にシンガポールはチャンギ国際空港に降り立ちました。

シンガポールは金融で栄えた国ですが、国土は東京都より少し大きいくらいだそうです、人口も500万人強ということです。ですので、観光場所というのもそこまで多いわけでもありません。物価としては、タクシーは日本よりかなり安く、電車を利用するのとあまり変わりませんので、移動は苦になりません。食事は、日本とそこまで変わらないでしょうか。気候としては、8月で日本も暑い時に行きましたので、この時期としては、日本の方とほぼ変わりませんが、熱帯の国で、1年を通して、平均気温が25度強から28度程度というこのようです。

1日目は、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイという巨大植物園に行きます。その名のとおり、植物園ではあるのですが、日本とはやはりスケールが違い、写真の、巨木をイメージしているというスーパーツリーや、約35メートルの滝などが見られ、園内はとても広いです。植物への造詣が深いわけでもないのに、一つ一つじっくり観るわけでもありませんが、それでも、一周するのに午前中いっぱいかかりました。



そして、その後、シンガポールと言えばというホテルマリーナ・ベイ・サンズの屋上階のプールに行きました。インフィニティプールと言って、外縁が空と混じり合い、境界が分からないように設計されています。景色は壮観でその中で泳ぐのは大変気持ち良いです。普段プールなんてほとんど行きませんので、結構本気で泳いでしまいましたら、おそらく現地の人から、何でそんなに本気で泳ぐんだ的な注意をされてしまいました。

2日目は、シンガポール動物園に行きました。シンガポールには大きな動物園が3つあるのですが、その内の一つです。これも、ただの動物園ではありません。いや、動物園という意味では動物園ですが、これまで日本で行ってきた動物園よりスケールが何倍もあります。イメージとしては、日本のように、園内に少しずつ動物が展示されているというより、一つの島に動物達が住み、それを中の通路を歩いて人間が観るといったような感覚でしょうか。展示の仕方も、日本のように、安全性を第一にして、柵も厳重で動物との距離も一定程度あるというわけではなく、柵も低く、距離もかなり近くで動物を観られます。猿なんかは、従業員がいて触らせてくれるという

わけでもなく、勝手にこちらに触って来たりします。

そして、最終3日目は、オプションツアーを利用して、隣国マレーシアのジョホールバルという都市に行きました。バスで1、2時間程度で行くことができ、内容的には、文化村を見学して、織物染めの体験などをするというだけですが、シンガポールとの違いを体験でき、これはこれで面白いです。ジョホールバルは一部を観ただけなのではっきりとは分かりませんが、やはり、シンガポールというのは世界的な金融センターの地位を確立し、相当に豊かで、マレーシアはまだこれからの国といった感想を持ちました。

その後は、定番のマーライオンも一応観ておきました。

食事は、海南チキンライスという、しょうがや鶏だしで炊いたご飯にチキンに乗せたものやチリクラブといったものが有名です。

シンガポールのガイドブックを見ると、大体、上記のような植物園、動物園などと、セントーサ島というところの、ユニバーサルスタジオが案内されています。

今回は、少し余裕を持った日程を組むことができましたので、シンガポールの観光名所は回ることができました。動物園に植物園か、とお思いになる方もおられるかもしれませんが、子どものみならず大人も楽しめる場所だと思います。

海外が好きな方と話をすると、シンガポールは何度も行っているという方が結構います。述べてきたように、観光名所という意味では、そこまで何かがあるわけでもありませんが、都会で、適度に買い物があったり、リゾートがあったりと、ハワイと同じような感覚で行かれるようです。また、ハワイなどと違って、日本人に出会うということはあまりありません。ハワイは、日本人も多くて私からすると安心感がありますが、上級者の方は逆を行かれるのかもしれないね。

最後にどうでも良い情報ですが、シンガポールには、自動販売機がないらしいです。自動販売機を置けば、当然ゴミが出るから、自動販売機は置かれていないとガイドさんから聞きましたが、確かにそう考えると、街が日本より綺麗かもしれません。そういう文化というのは、行って初めて分かることですので、海外旅行の醍醐味と言って良いと思います。

